

# アイ・あい だより



6月号



雨が続いたとかと思えば、日差しがきつく真夏のような日もあり、油断すると体調を崩しやすい季節ですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。雨天で気持ちも晴れない日があるかと思いますが、少し周りを見渡すと、あじさいが咲いていたり、葉っぱにカタツムリがいたり、この季節しか味わえない光景を目にすることができると思います。少し視点を変えて、この季節の自然を楽しむのもいいかもしれませんね。



## お知らせ

7月26日(金) サマースクール

今年もやってきました!! 来月はサマースクールです。大プール、小プール全部使って、教育相談に通っている友だちと思い存分遊んで楽しみましょう。話す機会が少ない保護者様同士の、様々な情報交換の場にもなればと考えています。ふるってご参加お待ちしております。

☆今月は『乳幼児のあそび』について紹介します☆

### 【あそびの前に・・・】



- ① 視覚に障害のない乳児は4か月頃から探索行動が見られますが、見えない、見えにくい乳児は、「モノに手を伸ばす」という探索行動がなかなか現れないことがあります。見えない、見えにくいために、遠くの物に興味を持つことができず、自分から取りに行こうとしないのが理由の1つです。もう1つの理由として考えられるのが、自分の手の中からなくなったものは、『もう存在しないもの』と捉えてしまうことです。では、どのようにして、物の永続性の認識を促したらいいのでしょうか?
- ② 物の永続性を認識することができたとして、では次にどのようにして探索行動を促していけばいいのでしょうか?

以上の2点について、効果的な遊びやおもちゃを紹介したいと思います。



### 【物の永続性の認識を促すあそび】

自分の手からなくなってもこの世に存在しているのだと認識できるようになるのは乳幼児期後半です。視覚障害のある乳幼児も、自分の手の中からなくなったものが戻ってくることで、「あれ?なくなったはずなのに…。ここにあった!!」と気づき、物の永続性を認識できるようになります。そのための遊びは・・・。

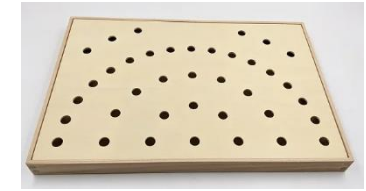


←ローリングシーソーのような、中に入ることでできる大きめの物を用意します。ベビーバスのようなものでもいいかもしれませんね。

赤ちゃん(ミッキーを赤ちゃんに見立てています)をその中に入れ、好きなおもちゃを持たせてあげてください。そのうち手からそのおもちゃが外れると思います。その時がチャンスです!! 何かのタイミングで勢いよく手から離れ、周りのへりに当たって戻ってくることもあるだろうし、そうでなければ、手のところに戻してあげてください。それを何度も繰り返すことで、物はなくならないということをしつこく認識することができてきます。ローリングシーソーのようなものの中でおこなうことによって、持っていたものが遠くにいってしまうことがなく、手から離れても体の近くにある状態を保つことができます。慣れてくると、手から少し離れていても手を動かせば届くところに置いてあげ、「ここにあるよ」と言いながら、音を鳴らしてください。自分で手を動かして取りに行く行動が見られるようになるでしょう。



### 【探索行動を促すおもちゃ】



物の永続性を認識できるようになったら、次は探索行動を促してみよう。その時に使うのが、『平面玉落とし』です。穴の開いている場所全てに玉を置き、指で玉を少し押しとポトンと下に落ちます。玉が穴を通る手の感覚も、ポトンと落ちた時の音も絶妙に心地よいものです。

どの玉でもいいのでまず一つ落とすように促します。すると、すぐ近くにも玉があるので、その玉に偶然手が触れ、玉がまだあることに気づきます。気づくと、またポトンと落としたいくなります。「あれ?まだあるかな?」と興味を引きだしていきます。最初は指先のみ点で触っていたのが次第に指全体の線で触るようになり、最後には手のひら全体を使って面で触ることができるようになります。玉があれば全部落としたいという心理を利用して、探索行動へと促すことができるおもちゃです。

『平面玉落とし』は手に入りにくい場合があります。その場合は、玉を落として遊ぶおもちゃに、『パロ』(左)や『トントンくるりん』(右)があります。

